方針－１０　針葉樹は、公園開設当初から受け継がれている基本的な考え方に基づき配植する。

〇植栽樹種（方針－２参照）

基本種：クロマツ、アカマツ、スギ、モミ（アカマツの代替として）

その他の種：ヒノキ、モミ、カヤ、イヌマキ、イブキなど

避けるべき外来種：メタセコイア（中国原産）、ヒマラヤスギ（インド他原産）など

〇配植方針　（配植案は 70 頁の図参照）

①古都に相応しい大径木の保護・育成に配慮した植栽とする。

・現存する大径木の保護と後継樹の育成に配慮した配植とする。

②公園植栽の基調となる針葉樹として、マツ類、スギ、モミを配植する。

・春日大社旧境内、手向山神社から二月堂、五百立山：スギ

・興福寺から国立博物館、東大寺大仏殿に至る範囲及び周辺：クロマツ

・浅茅ヶ原南部から鷺池、荒池周辺：アカマツ

・手向山神社から若草山山麓、新公会堂庭園東部に至る範囲：モミ（既存針葉樹であるモミをアカマツの代替とする。）

①マツ類とスギの分布　（67 頁の図参照）

方針－１においては、「植栽地の特性にあわせてマツ、スギ、サクラ、カエデを植栽し、これを基調とする。」と規定され、これまでの植栽の経緯や分布からマツ、スギ、サクラ、カエデの配植が設定されている。ここでは、まず方針－１の規定と現在の分布状況の比較を行った。

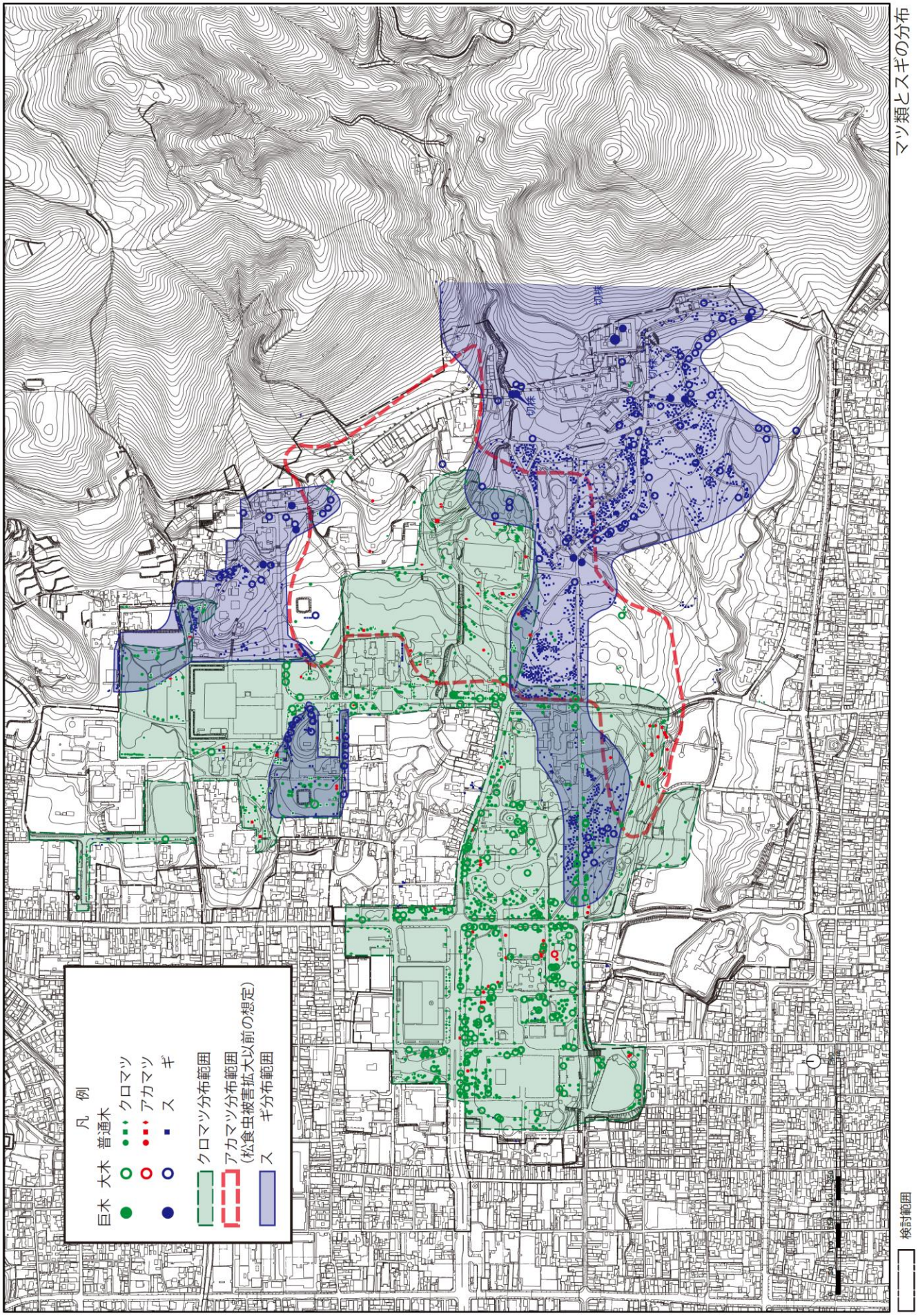
⇒アカマツが激減しており、「アカマツの分布範囲」への対応が課題である。

②アカマツ分布範囲に生育する現況の針葉樹（68 頁の図参照）

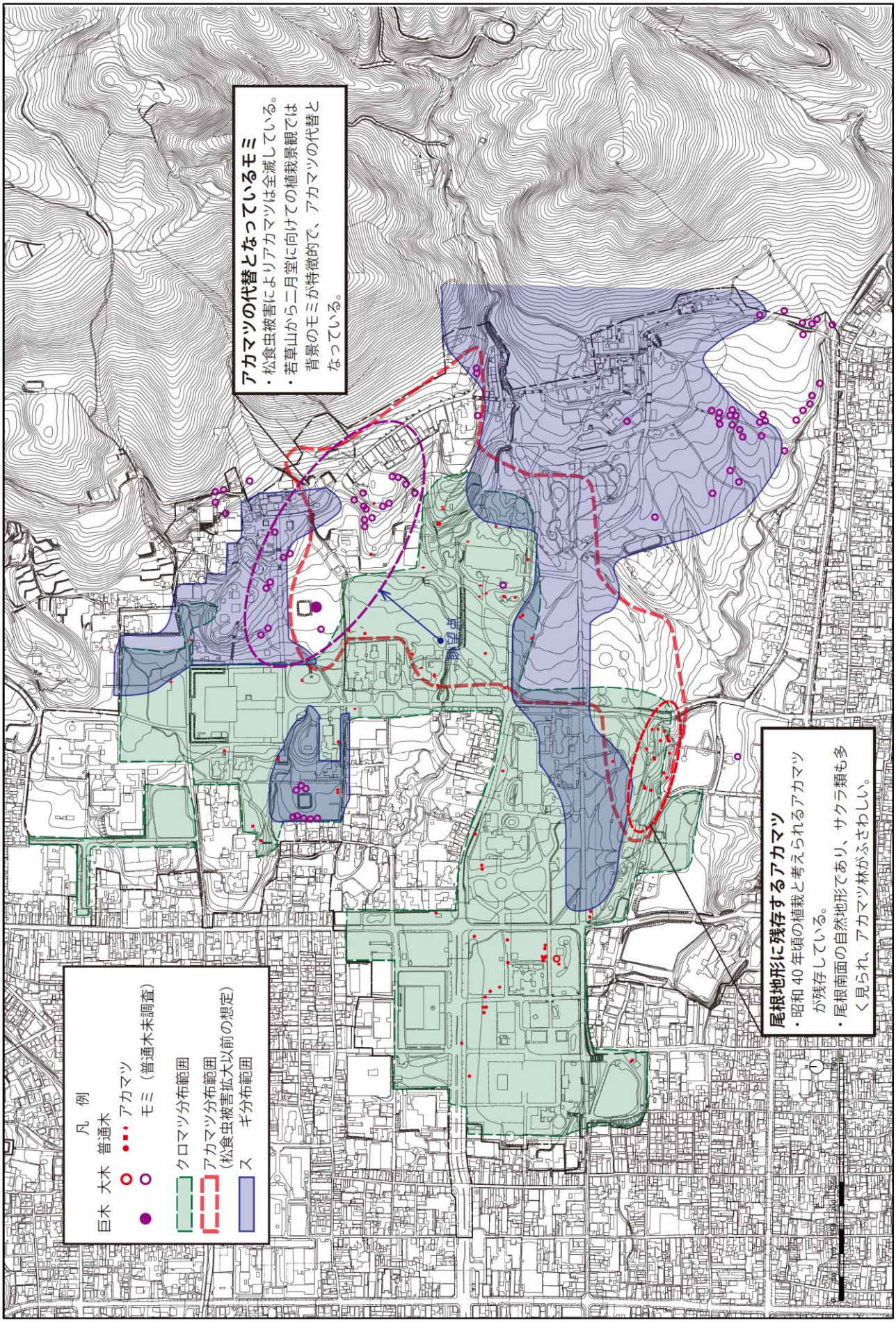
アカマツ分布範囲に生育する現況の針葉樹をみると、浅茅ヶ原にはアカマツが残存しておりこれに変わる針葉樹の生育は見られないが、手向山から若草山山麓付近にはアカマツの代替としてモミ等の生育が進んでいる。

⇒若草山山麓付近では、アカマツの代替としてモミの生育が進んでいる

③針葉樹の配植（案）（70 頁の図参照）

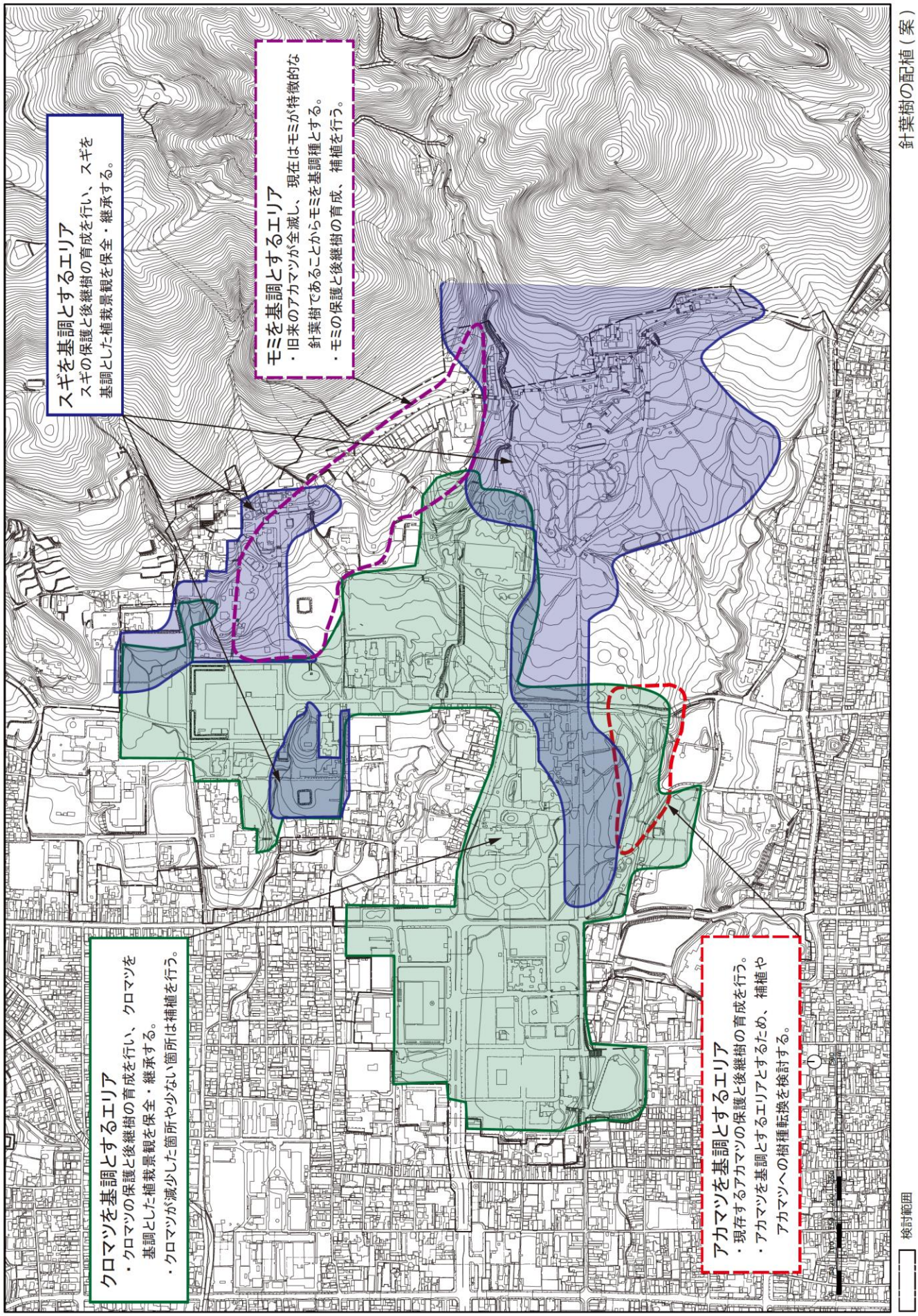

マツ類とスギの分布
凡 例
巨木 大木 普通木
クロマツ
アカマツ
ス ギ
クロマツ分布範囲
アカマツ分布範囲
(松食虫被害拡大以前の想定)
ス ギ分布範囲
検討範囲

図：マツ類とスギの分布



図：アカマツとモミ大径木の分布

写真：春日野園地から見える山麓のモミ


スギを基調とするエリア
スギの保護と後継樹の育成を行い、スギを基調とした植栽景観を保全・継承する。
モミを基調とするエリア
・旧来のアカマツが全滅し、現在はモミが特徴的な針葉樹であることからモミを基調種とする。
・モミの保護と後継樹の育成、補植を行う。
クロマツを基調とするエリア
・クロマツの保護と後継樹の育成を行い、クロマツを基調とした植栽景観を保全・継承する。
・クロマツが減少した箇所や少ない箇所は補植を行う。
アカマツを基調とするエリア
・現存するアカマツの保護と後継樹の育成を行う。
・アカマツを基調とするエリアとするため、補植やアカマツへの樹種転換を検討する。
検討範囲
針葉樹の配植（案）

図：針葉樹の配植（案）